

とから、この間の人員配置にはかなり苦慮されたようですが、職員は陽性とわかった時点ですぐ帰るという方法をとらざるを得なかったようです。クラスターが発生してからは、奈良医大感染症センターや保健所と連携して対策を行った様子も写真を交えて説明がありました。最終的にクラスターが終息するまでに42日間かかったということでしたが、大変な状況の中で、各方面から届いた応援メッセージが心の支えとなり、他法人からの応援や様々な人との信頼関係の中で乗り切ることができたと話されていました。

本人、家族の高齢化が進む中、福祉と同様に医療は欠かせないものですが、入院時の付き添いや在宅での介護は、親が担っているのが現状です。また、医療的ケアが必要になった場合、暮らしの場を選ぶ際にも制限がかかってしまいます。本人が、一生健康で暮らしたら良いのですが、そんな保証はどこにもありません。必要な医療を身近な地域で、いつでも安心して受けることができるように、そして、本人が望む暮らしを実現するために、育成会活動を進めていかなければならないことを再認識した大会でした。

## 第22回 全国障害者スポーツ大会「いちご一会(いちえ)とちぎ大会」が開催されました

理事長 長谷川 美智代

10月29日(土)から10月31日(月)まで、第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会(いちえ)とちぎ大会」が開催されました。今大会は、風水害や新型コロナウイルス感染症もあり、中止や延期が続いていたため4大会ぶりの開催となりました。

### 【第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会(いちえ)とちぎ大会」開会式 大阪市選手団の入場】



10月16日(日)には、長居障がい者スポーツセンターで大阪市選手団の結団式・壮行会が行われ、大阪市福祉局の松村障がい者施策部長からの激励のメッセージや、開会式の入場行進で使用する大阪市旗の贈呈がありました。

開催地に行っても、各競技場は感染防止のために観戦には事前予約が必要で、かつ会場定員の50%を上限としていたり、選手や役員には、大会2週間前から体調確認や検査などを義務付けていました。

また、大会期間中も宿泊施設と試合会場を行き来するだけで、街中を散策したり、会話をしながら食事をしたりすることもできず、選手たちにとっては、会期中の気分転換も難しい環境でしたが、大阪市選手団の結果は、個人競技で陸上競技21個、水泳21個、アーチェリー2個、卓球9個、フライングディスク17個(アキュラシー・ディスリート9個、ディスタンス8個)、ボウリング4個、今回から新たに加わったボッチャで1個のメダルを獲得し、団体競技は聴覚障がいの男子バレーボールが優勝、聴覚障がいの女子バレーボールが優勝、知的障がいの男子バスケットボールが4位という結果でした。

出場された選手の皆さんは、2024年にパリで開催されるパラリンピックも含め、それぞれ次の目標に向けて練習を始めておられると思います。栃木大会は終了しましたが、これからも練習を積んでいただき、来年行われる鹿児島大会でも皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

### 啓発活動に行ってきました

東成区支部 小泉 いと子

大阪市東成区社会福祉協議会よりご依頼を受けまして、長谷川理事長と共に10月8日(土)に大成地域ネットワーク委員会の皆様を対象とした啓発活動に行きまして。

初めに、知的障がいについて基礎的な説明と、啓発キャラバン隊YO〜おこし「みんなちがってみんないい」のDVDより、ケロッピーとケロ子ちゃんの疑似体験を見て頂き、その後会場の皆さんにも参加していただきました。

普段あまりすることのない体験をされ、会場も盛り上がり、最後に私も大好きなお話の「ひびわれ壺」の童話を朗読して終了しました。

大阪市東成区社会福祉協議会のご担当の松原さんより参加された皆様からの感想を頂きましたので、一部抜粋してご紹介させていただきます。

- ・障がいのことがよくわかった。何かあれば手助けしたい。
- ・疑似体験が興味深かった。具体的に抽象的な言葉を相手に伝えるのは難しい。(ひび割れ壺)心にささりました。